

第2学年 国語科学習指導案

2年2組 24名

指導者 三木田 敏恵

1 単元名 「音やようすをあらわすことばじてん」を作ろう

2 単元設定の理由

学習者は、これまでに朝の活動で詩を読んだりことば遊びをしたりする活動をとおり、ことばのもつおもしろさや楽しさに触れてきた。また、いろいろな本を読んで読書の楽しさも実感し、日記や日常の書く活動をとおり、文章を書くことにも慣れてきつつある。「わたしだけの『スイミー』を作ろう」の学習では自分の想像を広げて豊かに読み、本を作り、友達に伝えることで書く喜びを得ることができた。自分なりのことばをもっていると個性豊かに書くことができるが、学習者はまだ語彙も少なく、思いをそのままことばにつなげることは難しい。しかし、2年生という学年は、頭が柔らかく先入観がない時期であり、子どもらしい生き生きとした表現ができる年頃でもある。この時期にこそ豊かな言語感覚を養って語彙を増やし、ことばの力を身に付けさせたいと思い本単元を設定した。

本単元ではこれまでの学習を生かし、書く活動を中心に音や様子を表すことば辞典を作り、1年生にプレゼントする。その過程で、擬声語や擬態語を多く集め、そのニュアンスの違いを考えることにより、語彙を増やし、ことばに対する感覚を豊かにしようと考えた。ことばを集める段階では、多くの文章に触れ、周りの大人から聞く活動をとおり、幅広くことばを取り入れられるようにしたい。

本時は、いよいよことば辞典を作る活動に入る。学習者はこれまでに、動作や音、味覚や触覚、文字や絵からことばを探したり確かめたりしてきた。その中の擬声語や擬態語をいくつか取り上げ、どのような場面で使われることばなのかを考える活動を経て、本時の学習に入る。そして、自分が任されたページを作ることにより、今後さらにことばや人とかわかろうとする子どもの育ちを見つめたい。

3 単元の目標

(1) 学習者の活動目標

- 「音や様子を表すことば辞典」を作ろう。

(2) 指導目標

- 音や様子を表すことばについて知り、擬声語や擬態語に興味をもち、意味やニュアンスの違ったことばを多く集めることができるようにする。
- 話すことを楽しみ、知りたいことについて進んで質問したり、おもしろいことばや響きのよいことば、リズムのある表現などに気を付けて聞いたりすることができるようにする。
- 音や様子がよく分かるように擬声語や擬態語を選び、相手や目的をはっきりさせて説明や用途を短い文章に書くことができるようにする。
- 自分が調べたい事柄に関する本を選び、擬声語や擬態語から想像を広げて読むことができるようにする。
- 片仮名で書くことばを文章の中で正しく使うことができるようにする。

4 本単元における評価について

能力	評価規準	子どもがことばの力を身に付けた姿の一例	評価の資料
関心・意欲・態度	音や様子を表すことばについて知り、擬声語や擬態語に興味をもち、ニュアンスの違ったことばを多く集めようとしている。	・「十分満足できる」状況 音や様子を表すことばの意味の違いや働きに興味をもち、楽しんで活動している。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 友達の意見や教師からのことばを手がかりに、楽しく、活動できるように支援する。	・発言 ・学習の記録 ・ことば集めの紙
話す・聞く能力	自分が集めている擬声語や擬態語について、進んで質問したり教えてもらったことばを聞き取ったりして、メモすることができる。	・「十分満足できる」状況 自分なりに考えたニュアンスの違いを楽しんで話し、擬声語や擬態語に関心をもって、メモを取りながら聞いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 人前で話すのが苦手な学習者には、手引きを与えたり教師が側についたりして、自分なりに満足できる質問ができるように支援する。	・ことば集めの紙 ・質問の内容 ・話の聞き方 ・学習の記録
書く能力	音や様子がよく分かるように擬声語や擬態語を選び、相手や目的をはっきりさせ、説明や用途を短い文章に書いたり学習を振り返って学んだことや得たことを短い文章に書いたりしている。	・「十分満足できる」状況 1年生によく分かるようにことばを選び、説明や用途、感想を書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 書き方が分からない学習者には、手引きを用意したり教師と一緒に考えたりしながら、文章を書くことができるように支援する。	・ことば辞典 ・後書き ・学習の記録 ・ことば集めの紙
読む能力	自分が調べたい事項に関する本を選び、擬声語や擬態語から想像を広げて読んでいる。	・「十分満足できる」状況 擬声語や擬態語から自分の想像を広げ、楽しみながら読んでいる。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 さし絵を示したりヒントになることばを投げかけたりすることにより、音や様子を想像しながら読むことができるように支援する。	・発言 ・音読 ・学習の記録 ・読書の様子
言語事項	片仮名で書くことばを文章の中で使っている。	・「十分満足できる」状況 平仮名と片仮名の表記に気を付けて、正しく書いている。 ・「おおむね満足できる」状況にするための指導 擬声語は片仮名で書くことを確かめ、擬声語と擬態語を区別しながら書くことができるように支援する。	・発言 ・ことば集めの紙 ・学習の記録

5 学習計画（全 11 時間）

学習計画と指導（ ）	学習者の意識の流れ	身に付けさせたい力
日常より、擬声語や擬態語に関する詩を読んだり、ゲームを行ったりして興味・関心を高めておく。 1 「音や様子を表すことば」を読み「ことば辞典」を作る計画を立てる。（2時間） 全員に一語ずつ分担させ、それを修飾するオノマトペを集めることを確認する。 2 教材文を読み、様々な音や様子を表すことばがあることを知る。（4時間） よく似た音や様子を表すことばの違いを考えたり、一番ぴったりする言い方を探したりする。 3 自分が担当する動詞のオノマトペを集め、「ことば辞典」を作る。（3時間 本時2 / 3） ことば集めの活動を行って一人一人に合った方法で行うことにより意欲的に考えたり調べたりできるようにする。 4 仕上がった「ことば辞典」を読み合い、後書きを添えて1年生にプレゼントする。（2時間） 互いに「ことば辞典」を読み、ことばへの興味を高めようとする。	かえるや虫の鳴き声が出てきて楽しい詩だよ。 音や様子を表すことばってたくさんあるんだな。 五味太郎さんっておもしろい辞典を作ってるんだ。 「ことば辞典」を作って1年生に、プレゼントしたいな。 台風の風ならビュービュー吹くよ。 走る音ならいっぱい書けそうだ。 早く作ってみたいな。楽しみだ。 音や様子を表すことばには、よく似た言い方がたくさんあるから考えてみたいな。 「トントン」は弱くたたいているけれど「ドンドン」は強くたたいている感じだよ。 「にっこり」と「にこにこ」はどちらも声を出さずに笑っている感じがするな。 漫画にはおもしろい言い方がたくさん書いてあったよ。 1つのことばについてもっと自分で考えたり、調べたりしてみたいな。 「歌う」ならいっぱい書けそうだ。「歌う」を使って短文も書こう。 うちの犬、「ワンワン」だけでなくいろいろな鳴き方をするな。 お家の人や周りの先生に尋ねたり本で調べたりしてみよう。 「ことば辞典」ができてうれしいな。 友達が書いたことばも読んでみたいな。 早く1年生にプレゼントしたいな。 別のことばも調べて「ことば辞典」をもっと増やしたいな。	[関] 擬声語や擬態語に興味をもつ。（発言・学習の記録） [読] おもしろいことばや響きのよいことば、リズムのよい表現などに気を付けて読む。（音読） [書] 様子がよく分かるようにことばを選ぶ。（ことば集めの紙） [読] 具体的なことばの表現から想像を広げて読む。（発言） [読] 自分が調べた事柄に関する本を選ぶ。（読書の様子） [話・聞] 話すことを楽しむ。（発言、学習の記録） [話・聞] 知りたいことについて進んで質問しメモを取る。（ことば集めの紙、質問の内容・聞いている様子） [書] 相手や目的をはっきりさせて書く。（ことば辞典・後書き・学習の記録）

6 本時の学習

(1) 本時の目標

学習者の活動目標

ことば辞典の私のページを作ろう。

指導目標

一つの動詞を詳しくする擬声語や擬態語を選び、その説明や用途を短い文章に書くことができるようにする。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	身に付けさせたい力	評価の資料
1 前時の活動を振り返り、本時の学習のめあてをつかむ。	○前時までの流れをふまえ、自分が担当した動詞を修飾することばのページを書くことを確認させる。		・発言の様子
2 集めた擬声語や擬態語からお気に入りの一つを選び、その説明や用途を書く。	○そのことばの表す状況が、学習者なりに明らかにできるように、具体的な場面を示すなどして手引きを提示し、書く視点を与えるようにする。	○相手や目的をはっきりさせて書く。 ○説明や用途を短い文章に書く。	・辞典に書かれたことば ・書いている様子
3 自分が書いた文を、友達や先生に聞いてもらう。	○意味や読みやすさを考え、相手によく伝わるように書くことができるかどうか確かめられるようにする。	○分からないことや知りたくなったことを尋ねながら聞く。	・聞いている様子
4 感想を発表し、学習のまとめをする。	○次時の学習に意欲をもつことができるようにする。		・学習の記録

(3) 本時の評価

「十分満足できる」状況	それぞれの擬声語や擬態語の微妙な違いを考え、ことばを選びながら説明や用途を書いている。
「おおむね満足できる」状況にするための指導	説明や用途の文をイメージしやすいように、例文や手引きを示したり、指導者が一緒に考えたりしながら、短い文が書くことができるようにする。